

佐賀新聞 2010(平成22)年1月20日(水) 県内文化欄 連載「近代との遭遇 世界を見る・日本を創る」

120日(水曜日) 佐賀新聞 (第三種郵便物認可)

スポットスポット

近代との遭遇

世界を見る・日本を創る

今から150年前の1860(万延元)年、日本がアメリカに向けて2隻の船「ポートハタン号」(威風丸)と「火術方」(火術丸)を出発した。

火術方など7人 (米行日録) 大変なものや台場、海軍学校、造船所

ポートハタン号には、新見 豊前守正興を正使とする日米修好通商条約批准書交換のため、木村拱津守喜 訓練のため、長崎海軍伝習所 砲術や航海術、蘭学を学んでいた人の軍艦凌風丸の造船に、綾

今から150年前の1860(万延元)年、日本がアメリカに向けて2隻の船「ポートハタン号」(威風丸)と「火術方」(火術丸)を出発した。

火術方など7人 (米行日録) 大変なものや台場、海軍学校、造船所

ポートハタン号には、新見 豊前守正興を正使とする日米修好通商条約批准書交換のため、木村拱津守喜 訓練のため、長崎海軍伝習所 砲術や航海術、蘭学を学んでいた人の軍艦凌風丸の造船に、綾

今から150年前の1860(万延元)年、日本がアメリカに向けて2隻の船「ポートハタン号」(威風丸)と「火術方」(火術丸)を出発した。

火術方など7人 (米行日録) 大変なものや台場、海軍学校、造船所

ポートハタン号には、新見 豊前守正興を正使とする日米修好通商条約批准書交換のため、木村拱津守喜 訓練のため、長崎海軍伝習所 砲術や航海術、蘭学を学んでいた人の軍艦凌風丸の造船に、綾

幕府の使節団に随行

佐賀藩士 海外へ

ワシントンの大統領官舎に向かう使節一行—日本カメラ博物館蔵

い、岡は海軍方に属し、砲術研究や早月丸の艦長などを務めた。

幕府が海外へ使節を派遣する最後となるのが、1860(慶応3)年パリ万国博覧会に將軍徳川慶喜の名代として派遣された徳川昭武らの一団であった。

そしてこのパリ万博には、幕府のほかにも薩摩藩、佐賀藩が参加した。

パリ万博で

軍艦、造船所など見聞

は、薩摩藩が幕府とは別に独自のパビリオンを作り、「日本薩摩太守政府」と称したため、佐賀藩も「日本肥前太守政府」として出展した。そのため、幕府の「日本大君政府」と合わせて、三つの政府がパリ万博へ出品したことが、日本は幕府の下に統一された国家ではなく、連邦国家であるような印象を海外へ与えた。

なおこの時、佐賀藩からは精煉方から佐野常民、藤山文一、渡米経験のある小出千之助、商人の野中元右衛門、深川長右衛門が派遣された。彼らはパリ万博への参加とともに、軍艦の購入交渉、ヨーロッパ各国の視察などを行った。

その後、幕府崩壊の知らせを聞き、急遽帰国した彼らのうち、佐野常民はこの時の経験をかわれ、明治新政府が参加するウィーン万博でも活躍の場となった。

(佐賀城本丸歴史館学芸員 松田和子)

VUE GÉNÉRALE DE L'EXPOSITION UNIVERSELLE

L'Exposition Populaire Illustrée (パリ万国博覧会絵入りガイド) —佐賀城本丸歴史館蔵

▷佐賀城本丸歴史館の開館5周年を記念した特別展「近代との遭遇」は2月14日まで県立美術館で開催。1月25日、2月8日は休館。観覧料は一般1000円、大学生800円、高校生以下と障害者は無料。問い合わせは佐賀新聞社事業部、電話0952(28)2151へ。

県内文化